

# 【報告書】

## 会員調査2019

### Ⅲ. 各項目の回答結果

#### 2. 学術・研究活動の状況

---

日本理学療法士学会

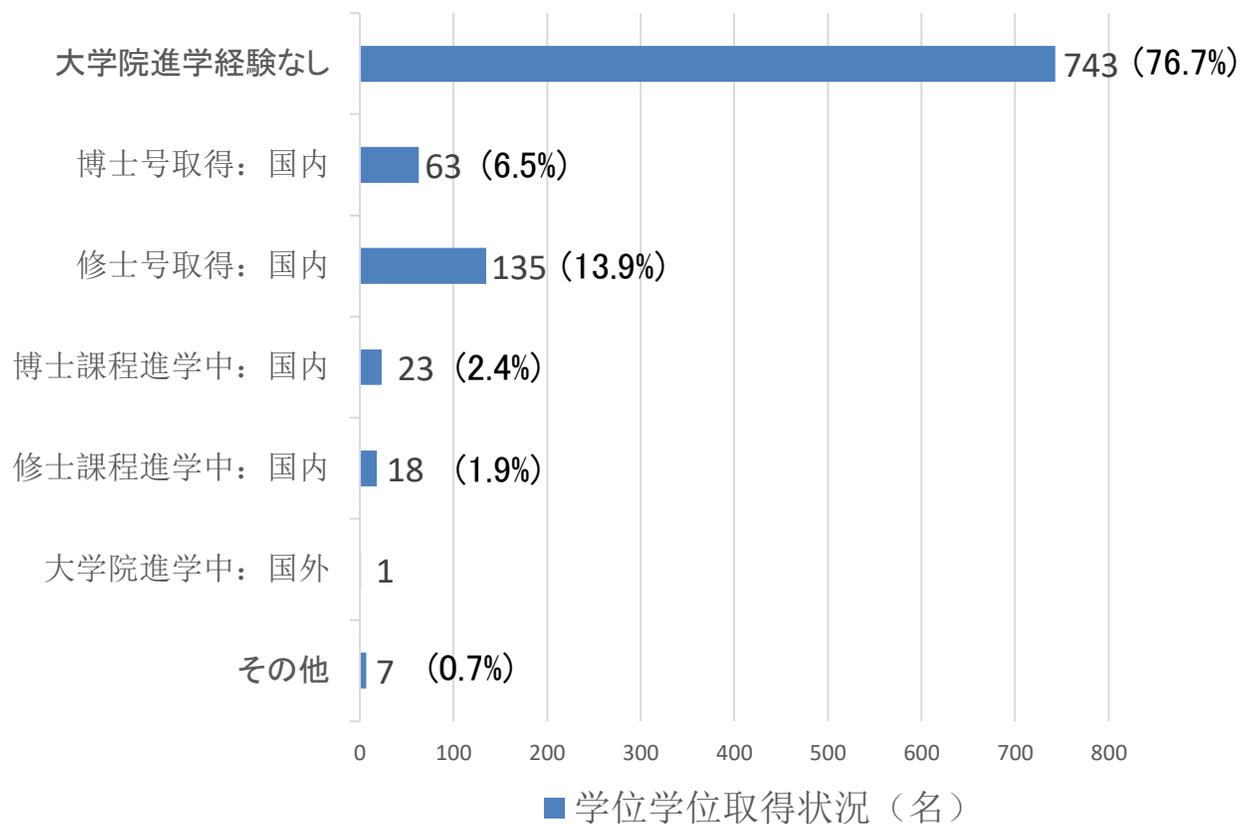
ウィメンズヘルス・メンズヘルス理学療法部門

# Ⅲ. 各項目の回答結果

---

## 2. 学術・研究活動の状況

# 大学院学位取得状況(最終学歴)



回答者数：969名(全回答者の82.3%)

※複数回答あり

《「その他」の内訳》

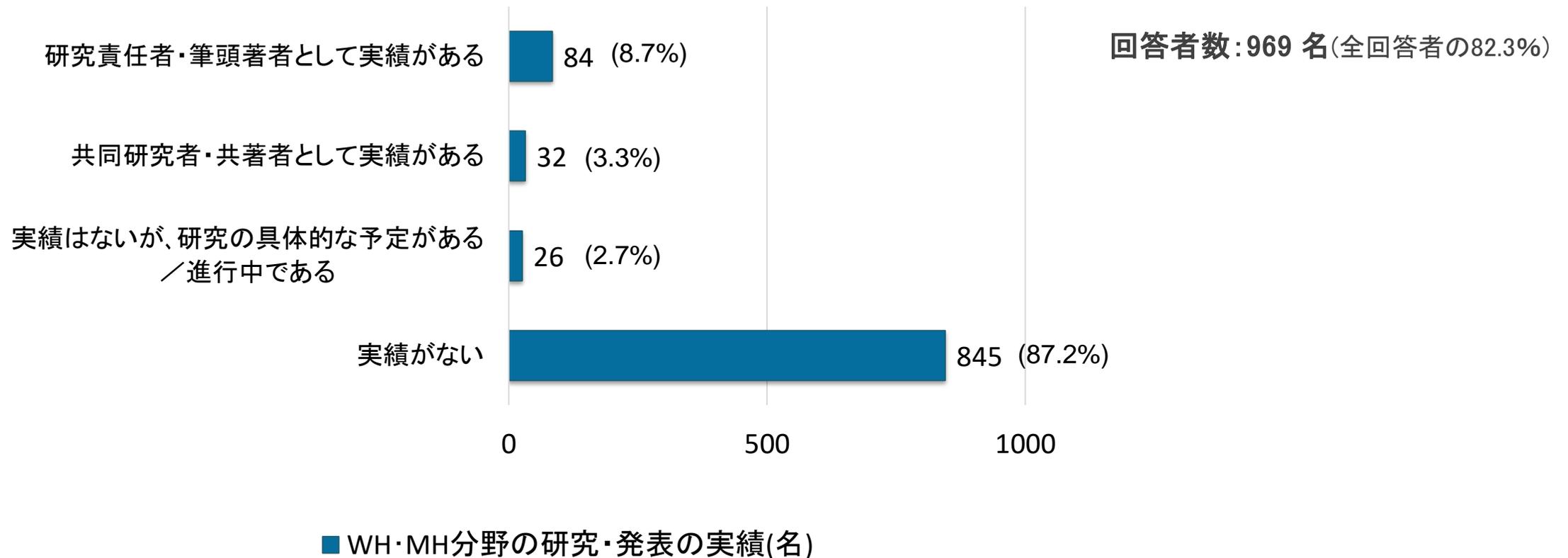
- ・今年度受験予定
- ・論文博士号取得
- ・スペインで修士号取得
- ・国内で博士号取得後にオーストラリアにて博士号取得

博士号・修士号取得者の実数は229名、全回答者の19.4%であった。

# WH・MH分野※の研究・発表の実績

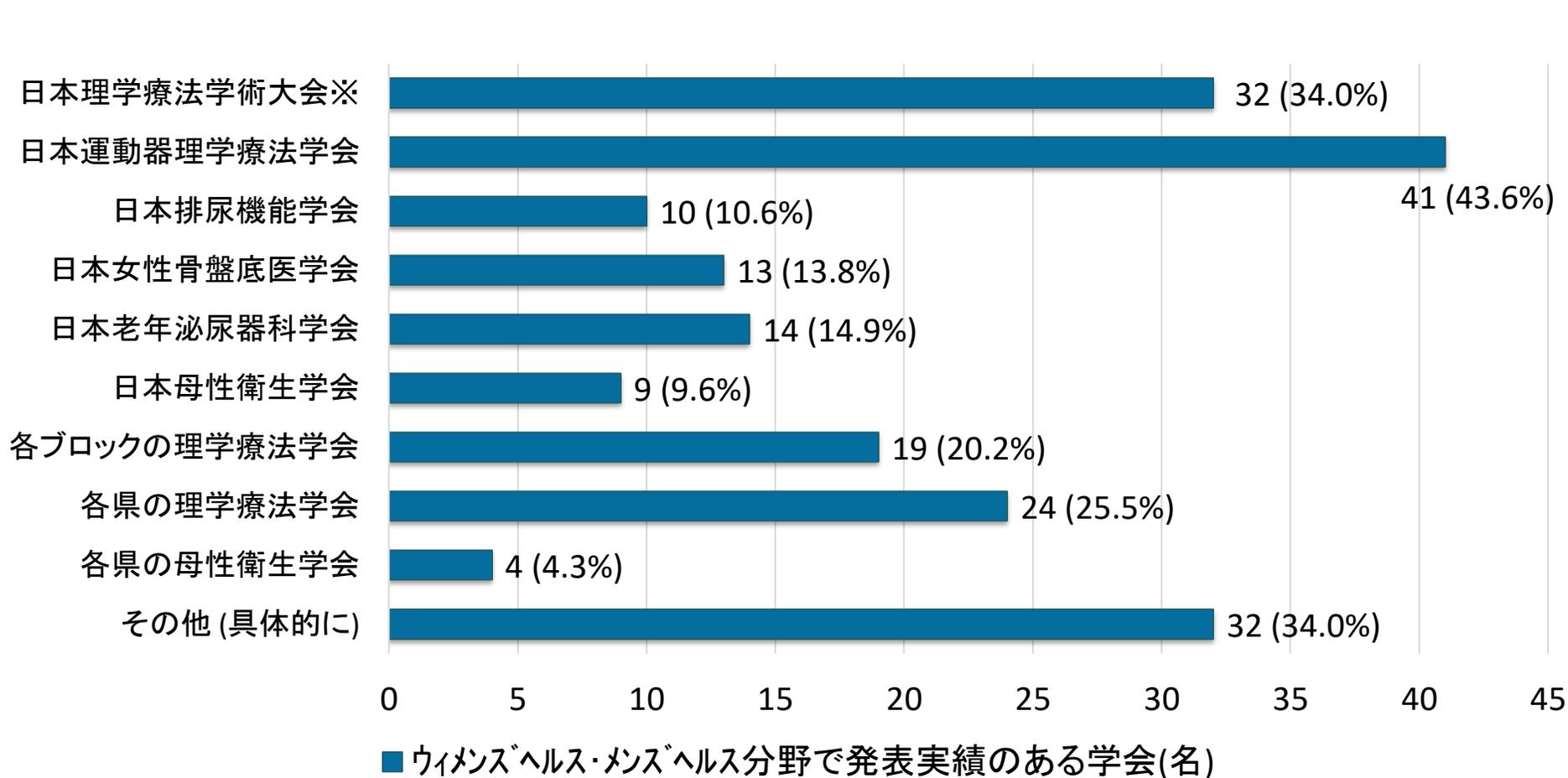
(複数選択)

※WH・MH分野=ウィメンズヘルス・メンズヘルス分野(以下共通)



研究の実績がない人が大半であり、研究に携わっている実績のある人は15%程度であった

# WH・MH分野で発表実績のある学会 (複数選択)



回答者数: 94名  
(全回答者の8.0%)

《「その他」の内訳》

国際学会7名 (ACPT※<sup>2</sup>3名、WCPT※<sup>3</sup>2名、ICS※<sup>4</sup>、IUGA※<sup>5</sup>等)

日本予防理学療法学会2名

日本体力医学会2名

日本病院学会2名

※1 日本理学療法学術大会は、第52回(2017年)までの実績

※2 ACPT : The Asian Confederation for Physical Therapy

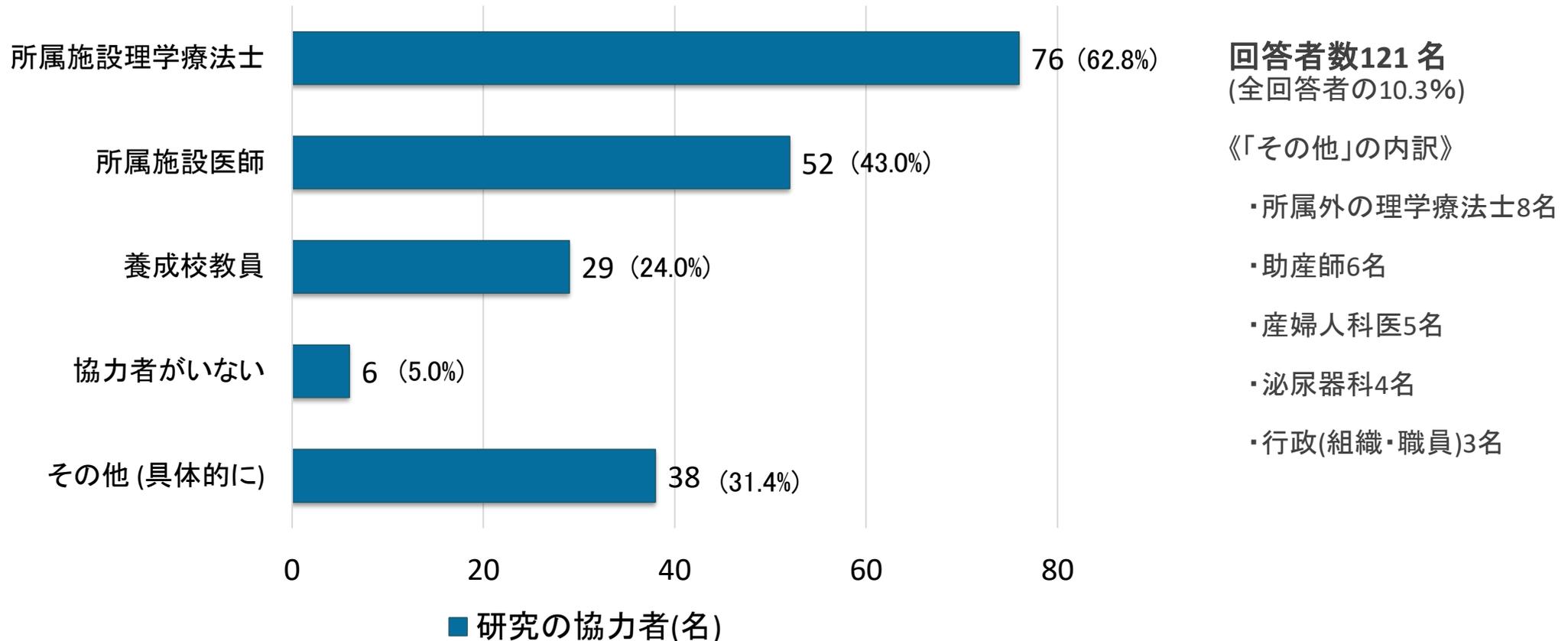
※3 WCPT : World Confederation for Physical Therapy

※4 ICS : International Continence Society

※5 IUGA : The International Urogynecological Association

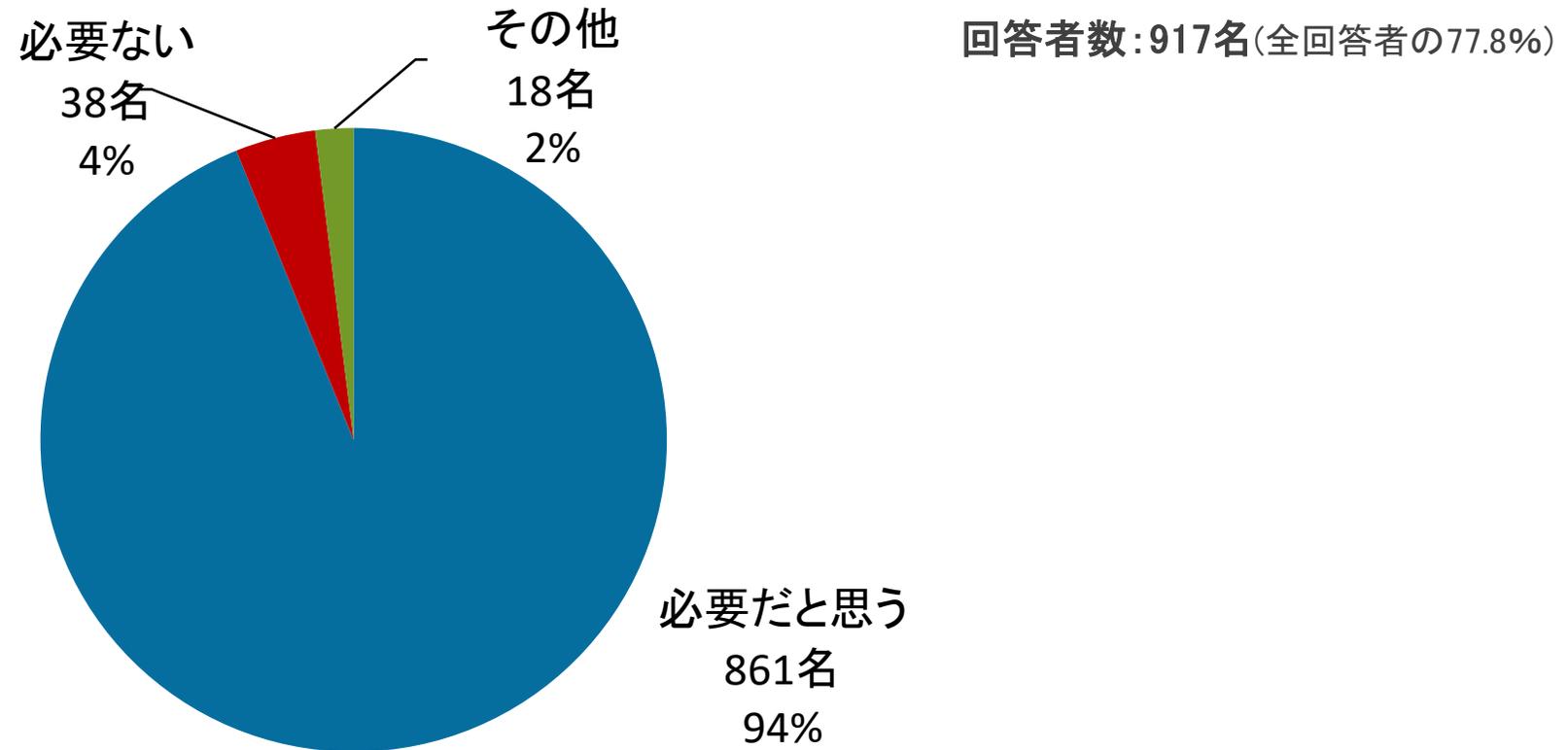
理学療法学術大会だけでなく、多岐に渡る学会において発表されている

# 研究の協力者について(複数選択)



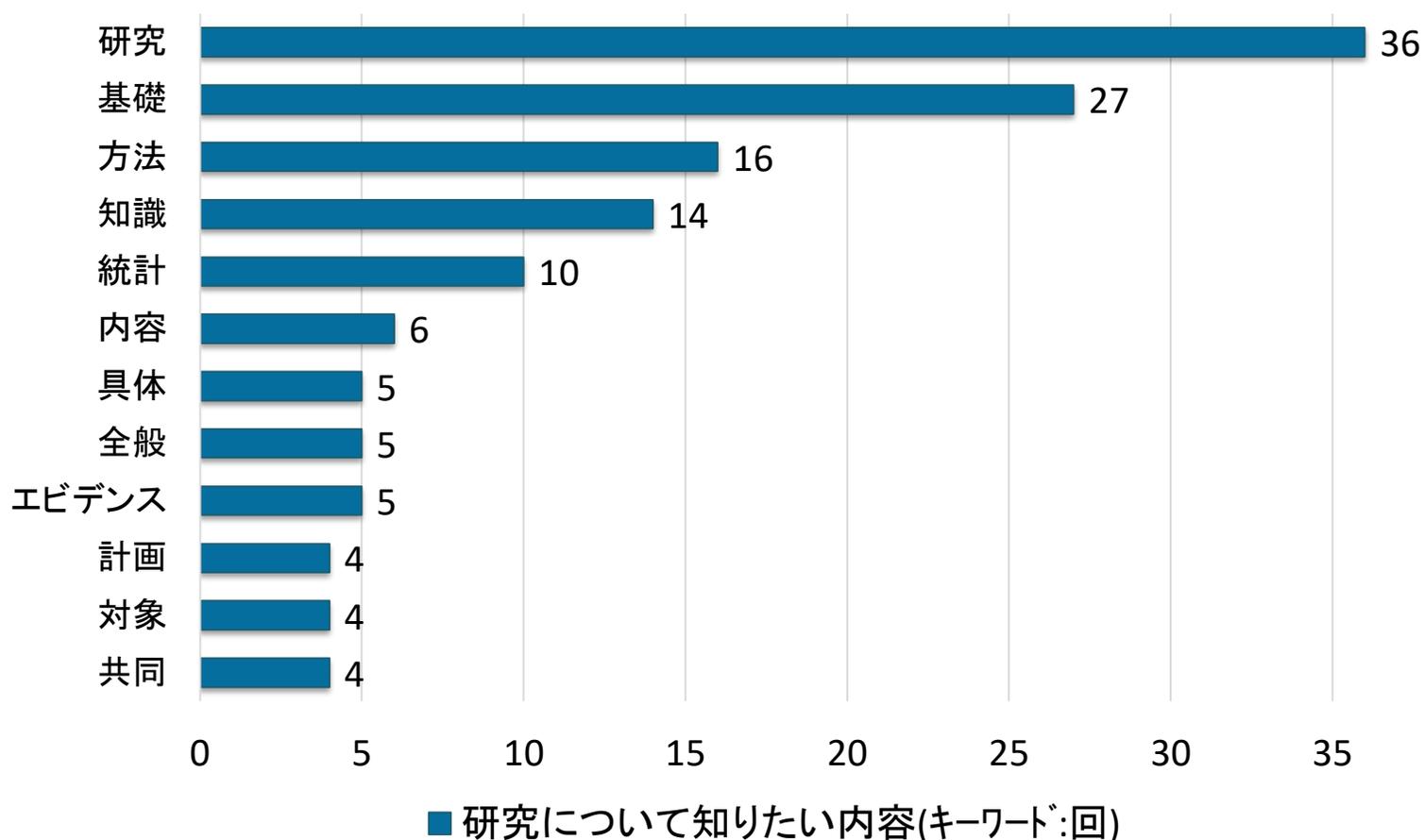
研究では、所属施設の理学療法士や医師、養成校教員が協力者であった

# WH・MH分野の研究に関する研修会の 必要性



回答者の93.9%が研究に関する研修会が必要だと考えていることがわかった

# WH・MH分野の研究に関する研修会で 知りたい内容



回答者数:916名(全回答者の77.8%)

※無効な回答3名含む

研究についての具体的な回答:94名(10.3%)

※KHCorderで抽出したキーワード(グラフ)

全般的な研究についてや共同研究、研究計画、対象者の選定等についての記載もあった。

その他の回答:819名

・研究以外の内容の記載:753名(82.2%)

研究以前の知りたい情報や知識・技術の内容や研究したい内容が多く、中でもエビデンスが最多(22名)であった。

・特にない:29名(3.2%)

・わからない:37名(4.0%)

希望する研修会の内容は、研究の基礎的な内容を希望する声が比較的多かった

# 学術・研究の状況についての考察

---

学術面では、博士号・修士号取得者の実数は229名、全回答者の19.4%であり、そのうちすでに実践している人は49名(全回答者の4.2%)であった。

研究・発表の実績があると回答した回答者の約7割がすでに実践している人であり、当領域についての研究・発表であった可能性が高い。

すでに実践している人のうち研究・発表の実績がある人の実数は69名で、そのうち学位取得者は28名、大学院進学中4名、大学院進学経験のなし36名であり、学位取得の有無に関わらず研究・発表の実績があることが分かった。

現状では実践している人の割合が少ないため、研究・発表の実績のある人もおのずと少ない状況であるが、今後実践したい人の学位取得者も多く、実践する人が増えることで、研究・発表も活発になる可能性が伺えた。

また回答者の94%が研究についての研修会が必要であると回答しており、基礎知識を含む研究についての学習機会を設ける必要性が高いことが示された。